

江戸の小話 (その三)

- 1 昔々ある所に、とても貧乏¹な男がいた。ある時、お金持
2 ちの家に行った。
3 「河童²が釣れるいい場所³を見つけました。でも、餌⁴に
4 肉が要ります。河童が釣れたら、お礼⁵をさしあげます⁶か
5 ら、肉をもらえませんか」 お金持ちは河童なら高く売れ
6 ると思って、肉の塊⁷を貧乏な男に渡して、言った。
7 「私も、河童を釣るところが見たいなあ」
8 すると、貧乏な男が言った。
9 「それは構⁸いせんが、木の後ろに隠れて⁹いてくださ
10 い。そして、決して喋¹⁰ってはいけません。河童は人間の
11 声を聞くと、逃げてしまいますから」
12 川に行くと、貧乏な男はお金持ちに気付かれないように、
13 肉を服の中に隠して、釣り糸に肉の代わり¹¹に石を括り付
14 けて¹²、ドボンと川に投げ込んだ。
15 お金持ちは木の後ろから声を出さないように見ていたが、
16 1時間も¹³すると待ちきれなく¹⁴なって、貧乏な男に声をか
17 けてしまった。
18 「まだ、釣れないのか？」すると、貧乏な男が言った。
19 「ああっ、今河童が餌⁴に食いついていた！でも、人の声が

¹'arm'

²'kappa' (een mythisch waterwezen).

³'plaats, plek'

⁴'aas, voer'

⁵dankbetuiging

⁶nederig synoniem van あげる

⁷'brok, stuk'

⁸かまう 'zich bekommeren'

⁹かくれる 'zich verstoppen'

¹⁰しゃべる 'praten'

¹¹Vgl. 代わる 'vervangen'

¹²くくりつける 'vastbinden'

¹³Hier: 'maar liefst, wel'

¹⁴～切る als tweede deel van een samengesteld werkwoord: 'helemaal'